

日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation) の一員として、20ヶ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

ロックバンドの「ナイトdeライト」が親善大使に。10月18日〈大阪〉食料デー大会で演奏



「ナイトdeライト」は、2006年北海道札幌市で誕生以来、「希望を歌うロックバンド」として北海道を中心に演奏活動を展開。2012年には地元プロサッカーチームのコンサドーレ札幌の公式テーマソングやプロ野球の阪神マーティン選手の登場曲を手がけるなど、人気と実績で注目を集めている人気ロックバンドです。

同バンドは当機構親善大使として、ハンガーゼロのチャリティーコンサート、イベント等への出演、世界の飢餓や貧困問題を伝えるオリジナルソングの提供などをさせていただきます。

親善大使就任にあたりメンバーの皆さんから「今の社会で希望の光となっていきたい、というナイトdeライトの願いは、世界で飢餓と貧困に苦しむ人々を助けようとする日本国際飢餓対策機構の活動と同じです。そのために力を合わせる事ができるのは大きな喜び、感謝です」とのコメントをいただきました。

ナイトdeライトの招いてチャリティーコンサートなどを企画したいなどの要望は、当機構東京事務所までご相談ください。

〈ナイトdeライト公式HP〉<http://night-de-light.com>

◆夏ギフトにグリーンティーとココア ひと工夫でデザート作りやアイスシロップにも

溶かして氷を入れれば、おいしいドリンクがすぐにできます。また、ゼリーやプリンにしてデザートにもできます。フラッペ、アイスクリームにかけるシロップとしても最適です。



※有機認証、フェアトレード原材料使用

【セット内容】

・グリーンティー顆粒 /150 g入り 760 円
・ココア / 200 g入り 650 円

送料 (600 円) 込み通常価格 2,010 円のところを日本全国へ合計 1,600 円でお届け。

(品物は郵便ポストに投函されます)

【お問合せ】 株式会社キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区本町 1-4-12NPOビル 402

TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888

◎ 2016 年国際協力カレンダーを制作中です

★ネパール被災者支援ボランティア募集

日程は9月中旬、震源地の村で再建のお手伝いをします。詳しくはウェブサイトに掲載。

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在...
31970口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。

お電話でも申し込み
できます。各事務所
までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000 円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000 円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 500 円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: 男・女

〒

フリガナ
住所:

.....

(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 301号

FAX・072-920-2155

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2階 E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル 3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町 4-8 CLC ブックス 2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メゾンズ米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた
めに、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛
関西地区のボランティアの皆様が送付作業のご
協力を下さっています。

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



フィリピン・ビコール地域マトノグの子どもたち

「互」が示す意味

日本国際飢餓対策機構 理事長 岩橋竜介

先日当機構の東北事務所のスタッフから東北の現状を聞き、あの震災と津波から4年半が経過して、被災された方々が何を必要としているのかが変わってきていることを改めて考えさせられました。もう一つ思い起こしたのは、あの「絆」という言葉でした。震災後は巷に「絆」が溢れかえていました。それ自体は本当に素晴らしことで、その絆のゆえに支えられた方々がどれほどいたことでしょうか。東北のみならず、あの時の日本を支えてくれた諸外国の方々との絆もありました。日本はそれまで様々な形で諸外国を援助してきました。あの危機的な時にその支えてきた国々が東北を、日本を支えてくれました。絆のすばらしさを痛感したものです。互いに支え合うことがどれほど素晴らしいことかを体験したのです。困難と苦しみの中で、お互いが絆で結ばれる経験をすることができました。

このように書いてきて、改めて教えられたのが「互」という文字です。漢字の成り立ちがどうであるかはわかりませんが、じっとこの文字を見ていたら、とても素晴らしい字だと思われたのです。助けようとする人が、上から手を伸ばしています。しかし、その手は「ここまで来い」というのではなく、むしろそっとその弱って助けを必要としている人の下に差し伸ばして支えているようです。そして、その

助けを必要としている人は、その差し伸ばされた手に自分自身の手を委ねて、下から支えてもらっているように見えるのです。まるで助けてもらっている人が「ありがとう。支えてくれて」と言っており、助けている人は「いいえ。あなたこそ私の手を信じて委ねてくれてありがとう」、と言っているようです。「互」という字をじっと見てみると、そんな会話が聞こえてきそうな気がしました。

「互」も「絆」も一人では成り立たないものです。自分以外の誰かがいる。自分の周りに、自分の助けを必要としている人がいる。そのことに気づき、喜んで手をさし伸べる。それも、その弱っている人を下から支えるように。また、喜んでその助けを受け入れる人もいます。人と人とがいると、どこかで摩擦も生まれてきますし、面倒くさいことも少なからずあります。しかし、愛の冷えてきているこの時代に、私たちの心を温かくし、無味乾燥の世の中に潤いを与えるのもまた、人と人の結び目から生まれてくるのです。私もその一人、あなたもその一人。一人ひとりがまず自分のいるところから、そしてできることから互いに結び合わされる時に、絆はそこに生まれます。決して流行りのスローガンではなく、人として生きていく上でなくてはならないこととして。「互」。あなたはどちらの人でしょうか？

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロ
で検索!

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ
募金が
できます!

ゆうちょ銀行
そのほか各金融機関

クレジットカード決済

コンビニ決済で現金振込
FamilyMart
Lawson
セブンイレブン

かざして募金

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

なぜ？ 飢餓になるの

シリーズ⑦ 「人の問題」

2014年1月号より、飢餓の原因を6回にわたって考えてきました。①貧困の連鎖 ②農業投資の少なさ ③気候と天候 ④戦争と土地を追われる人々 ⑤不安定な食料市場価格 ⑥食料廃棄です。最後の今回は、それらの根本にある人の問題を考えたいと思います。

現在世界人口は70億人を超え、その中で飢餓に瀕している人々が約8億人と言われる中で、「食料の争奪戦」が激化しています。過去にはトウモロコシ輸出量世界一を誇る米国が、自国のバイオエタノール向けに供給するためにその輸出に制限をかけ、中国では、家畜の飼料となる穀物だけでなく、化学肥料の材料であるリンの囲い込みを行いました。食糧や食糧生産に必要な資材の囲いこみを行うことで、世界の食糧の市場価格が上昇しました。また「穀物メジャー」と呼ばれる大手企業による買い占めや価格操作で、穀物が「投機」の対象となって世界の穀物価格の高騰が起き、そのあおりで食糧を買えなくなったのは貧困地域に生きる人々です。

人的要因による価格高騰

現在は2012年の高騰期に比べ穀物の価格は下がっているものの、今後も自然災害のみならずこのような「人的」要因による価格の高騰が懸念されています。富と権力をもつ者がそれを利用して利益を生もうとする諸々の動きにブレーキをかけなければ、人々が必要とする食糧が世界に十分ありながら、飢餓に苦しむ人々はさらに増える恐れがあります。

そのような中で、最優先事項として取り組むべきことは、どのような環境にあっても人の内にある能力や可能性を見だし、それを活用することに重きを置く人、持てるものを惜しみなく分かち合う「リーダー」となる人の育成であると私たちは考えています。そこに携わる人の変革によって持続的な活動が可能となり、地域が自立していくのです。

共に生きるライフスタイル

私たちはこのようなリーダーの育成を目的としたVOC（地域変革）セミナーを、2012年にアフリカ・ニジェールで、2013年にはコン

ゴ民主共和国で現地の指導的立場の方々や実業家を対象に開催しました。参加者はセミナーを通して「自分たちにも将来地域を変えていく可能性がある」との意識を持ち、飢餓・貧困に立ち向かうために「私から行動を起こす」重要性に気付くことができました。そして具体的な活動がそれぞれの地域で始まっています。このように、地域の人々の全人的必要に応えようとするリーダーが養われてくると、確実にその地域は自立へと向かって行きます。常に「共に生きる」という信念が相互扶助を生み出し、それがさらに近隣の地域に広がり、いずれはその地域全般の変革に繋がって行くのです。

今夏はこの地域変革セミナーをケニアで行う予定です。さらに人材が育成され、人々に仕えるリーダーが生み出されて、その地域、その国にまで影響を与えることを目指します。

私たち一人一人も世界で起こっていることを真摯に見つめ、持てるものを分かち合い他者と共に生きるライフスタイルを選びとるではありませんか。

わたしから始める第一歩として「ハンガーゼロ・サポーター」となって応援をお願いします。裏面に申込み欄。

3月13-14日に大型サイクロンに襲われたバヌアツでは、復興への長い道のりが始まっています。少しずつつづての日常を取り戻そうとしている被災住民を励ますため、6月に2度目の支援物資が神戸港からバヌアツの首都ポートビラの港に向けて送られました。

バヌアツサイクロン・被災者緊急支援

復興に向けて立ちあがる被災住民

以下は国際飢餓対策機構ニュージーランド (FHI-NZ) 代表のジョセフ・リー師 (写真⑥) からの報告です。

私たちがニュージーランドから到着した6月20日(土)には、既に日本からの支援物資が入港していました。FHI-NZバヌアツオフィスの副代表ジェームス・リー氏が貨物の受け取りに必要な手続きをすべて済ませており、週明けには受け取りが完了するはずでした。とこ

4地区、パンゴの2地区、メレの2地区、エアポートの2地区、ノースエファテの2地区、ブラックサンドの2地区の合計18の地区で、各地区平均100-200人の被災された方々にパンの缶詰とろうそくを届けることができました。

質が高いと被災者に大好評

前回もそうでしたが、送られてきたパンとろうそくの質の高さに、受け取った被災者の方々の間で、驚き、喜び、感謝の声が沸き起

配布を確実にするために記録をとって行いました



われていました。被災し、たくさんのものを失った中で、最も清潔でよい服をそれぞれが身に着けて集まっていた。支援物資の配布は、結婚式のお祝いムードを一気に盛り上げてくれました。

感謝を伝えて！

政府の災害援助事務所からも、日本の皆さんに心からの感謝を伝えて欲しいと言われました。日本の皆さんが被災したバヌアツの人たちのことを忘れることなく、こうして温かい心と共に支援物資を届けてくださったことに、みんなとても感動していました。一度はサイクロンによって大きな痛手を負った人たちが、再び、日本から届いた支援に励まされ、笑顔と喜びの声が広がっていくのは、とても美しい光景でした。共に痛みを分かち合ってきた日本の皆さんに心から感謝申し上げます。

● バヌアツ募金で報告 ●

7月20日現在で46万5,765円が寄せられました。感謝いたします

皆様からの募金、カメラマロソク、パンアキモト、中京医薬品の応援を頂き支援することができました



ろが、月曜日に大きなフェリーがバヌアツ港に入港し、乗客の安全確保のために埠頭が閉鎖されてしまいました。

ようやく6月23日(休)の昼頃になって埠頭から運ばれてきた支援物資を、その日の午後から翌26日の夜にかけて配布しました。ポートビラの中で最も貧しい地域である、シーサイドの4地区、オレンの

こりました。美しいケースに入っろうそくは、風で火が消えるのを防いでくれる上に、ろうが垂れてくことを心配しなくてよいと、みんな、とても喜んでいました。パンを食べた後で、わざわざそのおいしさを感謝の言葉と共に伝えに来た人たちがたくさんいました。

パンゴの長老教会では、支援物資の配布を行った日に結婚式が行

募金継続中です…郵便振替00170-9-68590（一財）日本国際飢餓対策機構「バヌアツ台風」と明記、ウェブからも募金可



大阪府立住吉高等学校は、国際文化と総合科学の専門学科をもつ学校です。早くから取り組んできた国際分野では、グローバルな視点を養う独自の授業カリキュラムや国際交流プログラムなどを取り入れ、当機構にも定期的に出前授業などの依頼もいただいています。そこで今回は、国際文化学科の生徒さん7名（1～3年生）に集まっていたき、当機構海外駐在スタッフの河合朝子に開発途上国での活動や飢餓・貧困問題などについて自由に質問していただきました。

大阪府立住吉高等学校 国際文化学科のみなさんが

河合駐在員と国際協力Q&A

Q 河合さんはいつから国際協力に興味を持たれたのですか

具体的に考えたのは高校2年生の時からです。家族が支援団体を通してタイの女の子の教育支援をしていたこともあり、高校生の時にその団体のインド・ワークキャンプに参加しました。そこでの経験や出会ったスタッフの活動をみて国際協力に興味を持ちました。キャンプでは、村人と交流しながらココナッツの植樹をしました。それは貧困家庭を助けるプログラムで、ココナッツの実を食べるだけでなく、葉は屋根に、幹は建築用の部材に活用するものでした。帰国後、成長したココナッツの写真が届いて嬉しかったですね。

Q 農業大進学は飢餓問題を解決したいと思ったからですか

解決というよりも、国際協力の中で私が一番興味があったのは農業分野でした。人が生きていく上で農業は基本ですから。農業のことを考えるとワクワクします。

Q 最初のボリビアではどんなことをされたのですか。

「農牧教育プロジェクト」といって、チャヤ地域のラクヨ学校の寮で高校生に野菜作り（温室栽培）と畜産（小動物）を指導して、生徒の栄養改善に取り組みました。担当地域は標高が富士山より高い4千mのため、主食のジャガイモが年1回収穫できるだけでした。現在このプロジェクトはFHの手を離れ、学校側に引き継がれています。

Q 言葉の問題はどうでしたか

ボリビアの時は、公用語のスペイン語は話せましたが、村人の話すアイマラ語は話せませんでした。ルワンダでは、ルワンダ語が片言しかできないので、単



ボリビア・ラクヨ学校学生寮での野菜栽培

語を並べて話していました。

Q 私が学校の研修ツアーでカンボジアに行った時に、現地の人々は貧しくても生活に豊かさがある、という見方は美談で、本当は幸福を諦めているのでは？とも思いました。河合さんは人々と接してどのように感じましたか

私は幸福そうに見えました。諦めているかどうかは分かりませんが、幸福感は人それぞれだと思います。現地の人々の生き方を訪問者が美談にしてしまうのもどうかと思いますが、「私とあなたは違うけれど、あなたはあなたで幸せそうね」って自然に伝えることはいいのではないかと思います。

Q 友だちがルワンダに将来行きたいと言っています。女性の視点で大変だったことは

髪の毛のことで少し悩みました。ボリビアではロングヘアだとシラミがうつる可能性があったのでショートヘアにし、自分でカットもしました。ルワンダ



井口奈々さん（1年）



新城綾菜さん（1年）



柴田祐里菜さん（1年）

では水が貴重で、水汲みしないといけないので、家に泊めてもらったりすると家族の人たちに負担をかけてしまいます。髪の毛が長いと水も多く必要ですね。

飢餓問題の解決策

Q 飢餓は何から生まれるのですか。飢餓は無くせるのですか

結論からいうと私たちの心から生まれると思います。自分さえよければいい、という考えが飢餓を生み出していきます。私は飢餓は無くなると思っています。そのために毎日の生活の中で一つでも自分にできることを続けていくことが大切だと思っています。

Q 途上国では食料が不足し、日本では食料が捨てられることもありますか

国によっていろいろな消費文化がありますが、企業が食料廃棄を少なくしていく努力や市民レベルの運動も必要です。フランスではスーパーマーケットからの廃棄を制限する法律ができました。スーパーは市民団体と連携して貧困者への配給に回す、または肥料にして再利用するシステムを作ることができます。

Q 飢餓を解決するためには、国の経済発展がカギを握っているのではないですか

国の政策は政府のすべきことです。企業も民間団体も住民もそれぞれの立場でできることがあります。途上国の場合はそれにNGOが加わって開発活動をしています。地雷を撤去したくてもその予算がない、

ならばNGOが応援する。でも国作りの主役はやはり住民です。政府指導で一方的に決められたことをするよりも、自分の村はこうなっていきたいと考えて行動を始める人々をサポートする。それが国際協力をするNGOの立ち位置ですね。

Q 国際協力に携わって嬉しかったことと辛かったことは

嬉しかったことは、農村が好きなので、その人たちとの交流しながら、地域独自の農業を見ることができたことです。その一方で炭水化物



ルワンダ養豚組合の研修の様子

ばかりの食生活や水が思うように使えないなどのなじめないことがありました。自分が現地の人々をもっと知りたい、好きになりたいと思いつつも全てを受け入れられないことが辛かったです。

Q 飢餓の勉強をしても、無駄や贅沢と分かっている、自分のやりたいことを選べない自分に罪悪感を感じるのですが

うーん。私もあると思います。しかし、遊びや楽しみの内容にもよるけれど、その時はそれでありがたく思って過ごしたらいいのではないのでしょうか。

ルワンダでは水の不自由さがありましたが、手足を洗うにも少しの水

を大切に使います。いま私の実家の畑には水路があって水がジャブジャブ使えるんです。もしここにルワンダ人がいれば水浴びをはじめると思います。それでも私は、贅沢とかもったいないとか思うより「ありがたいな」と感じるようにしています。

私から始めること

Q 寄付や募金集めを私たち高校生が実行する事についてどう思われますか

いいと思います。その時は支援する団体に「こういうことにお金を使って欲しい」と自分たちの考えを伝えることです。事前に団体の活動内容をよく調べて、勉強した上でコンタクトをとればいいと思います。JIFHも今回のネパール支援のためにいくつかの高校の生徒さんによる街頭募金から協力をいただきました。

Q 高校生が寄付以外にできることはありますか

今は世界と日本は様々な形につながっています。日本の食べ物の多くも外国から来ています。ですから私たちの食や生活を見直すことで、必要以上の消費を減らせるといいます。私は肉を食べません。肉の生産には家畜の餌としてトウモロコシが使われます。だから肉の消費を抑えれば、家畜の餌になるトウモロコシの畑を、食糧を作る畑にすることもできます。それでどんな効果が期待できるかというよりも、そういう考えを自分のライフスタイルに取り入れていくことで何かを始めることができるのではないのでしょうか。



後列左端は首席の山中啓子教諭



岩崎純菜さん（3年）



外村祐理子さん（2年）



神川友奈さん（1年）



島元穂佳さん（1年）

ハンガーゼロ自販機で国際協力の輪拡大中 ～全国に89台設置、ドリンク3本で給食1食分に～

ハンガーゼロ自販機でドリンク1本を買っていただくと、10円がアフリカの飢餓、貧困に苦しむ人々の食料支援のための募金となります。(30円で1人分の給食費)
2014年度の募金額は1,973,120円でした。

飢餓の現実を知って欲しい

この自販機を設置してくださっている会社の一つで日東金属工業株式会社(大阪府八尾市)の経営者、大久保八城さんによると、夏場は工場内が40℃近くになるので、従業員の皆さんが自販機を利用される回数も多く、身近な社会貢献の機会となっているとのこと。大久保さんはチャイルド・サポーターのお1人で、自販機を設置したきっかけについて「2012年12月に三女が、JIFHが支援しているケニアのシーブケア学校にボランティアとして行きました。このことで家族がアフリカへの関心が高く、社内でも飢餓の現状と支援

活動について知ってもらいたいと思うようになりました」と話してくださいました。

自販機見てサポーターに!

また7月2日には静岡県で第1号となるハンガーゼロ自販機が、清水シティチャーチに設置されました。全国で89台目です。教会はJR清水駅西口の駐輪場、駐車場が並ぶ人通りの多い所にあるので、自販機を目にした人々が世界の飢餓、貧困の現状に目を向ける時となればと、牧師のスリヤ佐野さん、ヨハンナ雪恵さんご夫妻が協力してくださいました。「受験生の次男は国際関係の分野を目指し、世界の飢餓に直面している方々を助

自販機設置を喜んでおられる教会の皆さん



けたいと言っています。小4の娘も同じような夢を持ち、最近はい物をする時も『これにこんなにお金を使うより、飢餓の人たちを送りたいなあ』と言ったりします。彼女1人でJIFHの貯金箱をいっぱいにしました。自販機を置く相談をした時、子どもたちもとても喜んで賛成してくれました」とも話してくださいました。

ご家族の思いは設置して間もなく教会の英会話クラスの生徒さんの心に届きました。自販機を見た生徒さんが「今まで飢餓で苦しんでいる人々についてよく知らず、何もして来なかったことをとても後悔している」、とハンガーゼロ・サポーターになることを申し出てくださいました。なお、自販機用のコンクリート土台は、隣でマンションを建設中の大東建託株式会社さんが無料で作ってくださったそうです。



日東金属さんでは1ヶ月の販売数が1千本を超えています

災害備蓄に
対応可能な
タイプも!

ハンガーゼロ自販機には国際協力型に加えて、災害時対策を兼ね備えたタイプもあります。キリンビバレッジの災害備蓄用ミネラルウォーター330mlとパン・アキモトのパンの缶詰(96セット)が提供されるタイプです(2年毎に無償で入れ替え)。国際協力と災害時対策を兼ね備えた自販機として関心を集め、現在全国に74台設置していただいています。是非この機会にハンガーゼロ自販機の設置をご検討ください。(お問い合わせは大阪事務所: 碓井まで)

子どもたちによるケニア里子支援

岐阜バプテスト教会 サムエルクラブ

私から
始めます

支援者の取り組み

日本バプテスト連盟岐阜バプテスト教会のサムエルクラブ(教会学校の子どもたち)は、2012年夏にケニアで世界里親会の働きが始まった時から、シーブケア学校に通うムムちゃんの支援をしています。大人の献金で支えて貰って、子どもが交流するのではなく、子どもたち自身が自分とは異なる状況下にある同年代の子どもたちのことを思い、自分に与えられている時間や労力を差し出して、良い隣り人を実践しています。

岐阜バプテスト教会では、教会員全員が参加して教会運営について話し合うための全体会を、毎月第3日曜日に行っています。多くの人たちが午後まで残るこの日の昼食作りはサムエルクラブが担当しています。

子どもたちが、3種類のおにぎり(鮭、梅おかか、菜めし等)



を握り、お味噌汁とセットにして300円で教会の皆さんに購入してもらい、その売り上げを毎月のチャイルドサポーター(里親)費に充てています。ケニアの里子、ムムちゃんが学校に通うことができるようにと皆さん喜んでおにぎりを食べて協力してくれます。

夏の間は、礼拝後のアイスコー

ムムちゃんことオボニョ・マリイ・アニヤンゴ



ヒーの奉仕もサムエルクラブが担当しています。支援金が足りないような時は、みなさんでお菓子を作って販売することもあります。教会の皆さんはいつも売上に協力して支えてくださっています。

夢に向かうムムちゃん

子どもたちはムムちゃんとの手紙の交換もしています。ムムちゃんからの手紙や里親会の報告は、フェローシップルーム(食事や会議をする部屋)に掲示(写真⑥)して、いつも協力してくださる教会の皆さんに読んでもらいます。

ムムちゃんは、サムエルクラブの麗音くんと同い年です。支援開



始時には初等学校の4年生だったムムちゃんも、今年は7年生。来年はいよいよケニア初等教育修了試験(KCPE:日本のセンター試験のような全国統一の中等学校選抜試験)です。医者になりたいという夢に向かって頑張れムムちゃん!

サムエルクラブの子どもたちも中学校では部活に勉強に忙しい日々を送っていますが、そんな中でも自分たちにできるささやかな奉仕でムムちゃんの夢を応援しています。

アジア、アフリカ、南米で支援を待つ子どもが600人以上います。チャイルドサポーターとなって応援してください。